

God With Us

Part 7: Kings & Prophets to Exile and Return
Judah's Fall and God's Faithfulness

Message 2—Isaiah: His Calling and Message to Judah
Isaiah 1-39

神は我らと共に

パート7：王と預言者たちの強制退去と帰還
ユダの墮落と神の忠実さ

第二メッセージ—預言者イザヤの召しとユダへのメッセージ
イザヤ書1-39章

はじめに

預言者イザヤは、「預言者の君」と呼ばれた。イザヤ書は、ユダヤ人（旧約聖書）の預言書の中でもトップにある理由は、その預言の範囲と重要性からである。イザヤの預言は、新約聖書の中でも他のどの予言書よりも頻繁に引用されている。イザヤという名前は、「ヤハウエは救われる」、あるいは「ヤハウエは救い」という意味である。イザヤは、ユダの南王国の4人の王、ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤが統治した時代の預言者であり、計16年間続いた。ウジヤは最後まで熱心に神のために君臨を全うしたが、不従順のためハンセン病にかかり、息子ヨタムが16年に至るまで統治を続けた。ウジヤの死後、神はイザヤを預言者として、また特別顧問としてヨタムの統治を導くために召された。ヨタムの息子のアハズは、神に背を向け、神はイザヤを用いてアハズを呼び戻そうとされたが（7：1-12）、アハズはそれを拒んだ。アッシリアの危機におけるヒゼキヤの歩みを導き、ヒゼキヤが紹介した主要な宗教改革を導いた預言者イザヤからの助言と祈りをヒゼキヤは継続して求めた。イザヤは北王国の最後の17年間、アッシリアに、神に帰り、不義、偶像崇拜、神に対する邪悪を捨てよう警告し、そうしなければ、アッシリアによって滅ぼせることを告げた。

イザヤという男

イザヤは、神に対して情熱的で、その国家とメッセージは、およそ50年に及んだ。ユダの王たちに近づき、メッセージを語ることを恐れず、イスラエルとユダを取り巻く国々の王たちに近づくことも恐れなかった。神の御心を情熱的に分かち合った一神の慈悲が提供されている期限内に、神に戻ることを心から望んだ。イザヤは謙虚な男で、王の王であられる聖なる神に比べると、如何に自分が罪な心と口を持っているか認識していた。天の御座と神の呼び方に関するイザヤのビジョンについては後に詳しく見ていきます。

イザヤは女預言者と結婚し（8：3）、共に二人の息子を育てた。それぞれの息子に神のユダ王国のための具体的なお目的を表す名前を授けるよう命じられた：1. マヘル・シャルル・ハシ・バズ（盗むに迅速かつ素早く台無しにする。8：1-4, 18）。2. シャル・ヤシュブ（残りは返還しなければならない。7：3）それらの名前は、国の来るべき裁きと修復を予兆している（捕らえられた後、また、遠い未来の時代の終わりに）。

イザヤは神の御心とメッセージを強いるために比喩、直喩、隠喩、擬人化、皮肉、からかい、詩（5, 12, 35, 54章）などの様々な話法を用いた。また頻繁に、エジプトを信頼したユダに対する警告として、アッシリアに捕らえられることを予告するために、意図的に腰から荒布を解き、裸、素足になって3年間過ごす（20：1-6）などという奇妙な行動をとった。イザヤがどの様にこの世を去ったかについて聖書は触れていないが、ヒゼキヤの息子である邪悪なマナセ王の治世の間（列王記第二21：16）に、イザヤが真っ二つに裂かれたことについては説明されている（ヘブル人への手紙11：37）。

イザヤは、神による自身のアイデンティティを見つけた非常に信仰深い男であった。神がもたらしてくださった心の休

憇を分かち合う必要性を最初から心得ていた。真実と希望を忠実に語るのだが、人々は彼を嘲笑し、無視する。主なる神はわたしを助けられる。それゆえ、わたしは恥じることがなかった。．．．だれがわたしと争うだろうか、見よ、主なる神はわたしを助けられる（イザヤ書50：4-10）。私たちのアイデンティティが神のものとされ、神の愛と目的の内に生きる時、主が助け人となられ、親しい友人となってくださることを知り、人々の圧力と嘲りからも保護される。

預言者イザヤのメッセージ

預言者イザヤの主な役割は、4つの主なテーマに分けられる：**裁き**—神の信じられないほどの忍耐と慈悲が終わりを告げようとしていることを発表した。神であるヤハウエとの契約に対する長年にわたる不服従（出エジプト以来700年以上）のために、**裁き**はアッシリア（紀元前722年の北王国の破壊）とバビロン（紀元前586年の南王国の破壊）から二つの波のごとく押し寄せる。**勝利**—それでも、神は契約の約束に常に忠実であられるので、イザヤは、神の選ばれた民の栄光ある将来の予見を見た。懲罰も捕虜もすべての季節を通して、この世の終焉まで勝利は維持される。**救世主**（メシア）—**救世主**（救い主）は、まず「苦しむ僕」（53章）として人類の罪のために、そのお方を信じるユダヤ人と異邦人の両方を贖うために、また、ご自身の血を流すために来られる。**永遠の御国**—第二に、救世主は、永久的に正義と平和をもたらす永遠の王国と人類の支配を確立する。

イザヤの預言書は長く、生涯続く使命の中で与えられた多くの預言から成っている。一般的に次の様に2つの本に分けられる：

I. 裁きの本：1-39章

A. ユダとエルサレムに関する預言：1-12章

B. 周辺国に関する預言：13-23章

C. 全地球と人類に関する預言：24-35章

D. 歴史的間奏：ヒゼキヤとアッシリアの脅威：36-39章

II. 平安の書：40-66章

A. 唯一の真の神、対、偶像の神々：40-48章

B. 救いをもたらす主の僕：49-57章

C. 神の民の将来の栄光：58-66章

「裁きの書」の概要（1-39章）

神が宮殿の中でイザヤの前に劇的にお現れになった（6章）。イザヤは天の御に座っておられる神の幻を見た。神は、燃えるような天の存在—セラピムによって崇拝されていた。セラピムは言い交わした。「**聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主、その栄光は全地に満つ**」（6：3）。イザヤは神のご栄光を見たとき、自分の罪深さを認識し、芯まで震えた。これまでユダヤ人に対して罪深い唇や行動について語って来たが、神聖な神の御光に照らされ、自分の彼らと同じであることを認めた。神が使者を求められたとき、即、進んで申し出た。神はイザヤを清められ、困難なメッセージを国家に伝える任務を与えられた：何世紀にもわたる頑固な不従順と神であるヤハウエに対する反抗のために、心の司法的強化が人々に及ぶであろう。神は、人々の頑固で不従順な心の状態を確認された上で判決に繋がるでしょう。神は初めから人々がそのメッセージに耳を傾けないことをご存知であったので、そのために預言者として、その任務は非常に困難となることをイザヤに語られていた。その上で、イザヤは神のために苦しむことを喜んだ。

主は言われた、「あなたは行って、この民にこう言いなさい、『あなたがたはくりかえし聞くがよい、しかし悟ってはならない。あなたがたはくりかえし見るがよい、しかしわかつてはならない』と。あなたはこの民の心を鈍くし、その耳を聞えにくくし、その目を閉ざしなさい。これは彼らがその目で見、その耳で聞き、その心で悟り、悔い改めていやされることのないためである」。(イザヤ書6:9, 10)

その心の頑なさがどれくらい続くのか神に尋ねたとき、その返答は明らかであった：

そこで、わたしは言った、「主よ、いつまでですか」。主は言われた、「町々は荒れすたれて、住む者もなく、家には人かげもなく、国は全く荒地となり、人々は主によって遠くへ移され、荒れはてた所が国の中に多くなる時まで、こうなっている。その中に十分の一の残る者があっても、これもまた焼き滅ぼされる。テレビンの木またはかしの木が切り倒されるとき、その切り株が残るように」。聖なる種族はその切り株である。(イザヤ書6:11-13)

A. ユダとエルサレムに関する預言 (1-12章)

預言者たちの厳しい任務は、真の現実を常に神の視点から宣言することであり、真実であると思われる日常生活の中で起こっていた事柄ではなかった。国は繁栄している様に見えたが、イザヤのメッセージは当時の偽預言者に対抗した。ユダは惨めな犠牲者(1:5, 6)であり、革命の戦場(1:7-9)であり、エルサレムは古代のソドムとゴモラ(3:9; 創世記18-19章)同様の邪悪さで溢れていた！鍵となるテーマがここに見られる：

人々の罪：殺人、強盗、賄賂、無力な者を搾取、欺瞞、正義の否定、ねたみ、酩酊、泥酔、偶像礼拝と不妊治療の祝福の

ための性的売春、占い、誇り、誇らしげに戯れる傲慢な女性、悪という悪を呼び、神の律法と規律を捨て、．．．しかし、すべてが覆され、アッシリアによる侵略の差し迫った滅亡は否定された。

神の約束と希望：吉凶と暗黒の至る所に散らばっていたのは、最も愛されたいくつかの希望の詩であった。例：アハズ王が印を求めることを拒否した後、神は記しを約束された：

それゆえ、主はみずから一つのしるしをあなたがたに与えられる。見よ、おとめがみごもって男の子を産む。その名はインマヌエルとなえられる。(イザヤ書7:14)

暗やみの中に歩んでいた民は大いなる光を見た。
暗黒の地に住んでいた人々の上に光が照った。
(イザヤ書9:2)

ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、「靈妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君」ととなえられる。そのまつりごとと平和とは、増し加わって限りなく、ダビデの位に座して、その国を治め、今より後、とこしえに公平と正義とをもってこれを立て、これを保たれる。万軍の主の熱心がこれをなされるのである。
(イザヤ書9:6, 7)

エッサイの株から一つの芽が出、その根から一つの若枝が生えて実を結び、その上に主の霊がとどまる。これは知恵と悟りの霊、深慮と才能の霊、主を知る知識と主を恐れる霊である。彼は主を恐れることを楽しみとし、その目の見るところによって、さばきをなさず、その耳の聞くところによって、定めをなさず、正義をもって貧しい者をさばき、公平をもって国のうちの柔和な者のために定めをなし、その口のむちをもって国を撃ち、そのくちびるの息をもって悪しき者を

殺す。正義はその腰の帯となり、忠信はその身の帯となる。
(イザヤ書 11 : 1 - 5)

おおかみは小羊と共にやどり、ひょうは子やぎと共に伏し、子牛、若じし、肥えたる家畜は共にいて、小さいわらべに導かれ、雌牛と熊とは食べ物を共にし、牛の子と熊の子と共に伏し、ししは牛のようにわらを食い、乳のみ子は毒蛇のほらに戯れ、乳離れの子は手をまむしの穴に入れる。彼らはわが聖なる山のどこにおいても、そこなうことなく、やぶることがない。水が海をおおっているように、主を知る知識が地に満ちるからである。(イザヤ書 11 : 6 - 9)

神の聖なる怒り：神の怒りと凄まじい激怒を人間界の制御や虐待による怒や子供のかんしゃくと同様にしないよう注意しなければならない。ウィエルスビー (Wiersbe) は、愛によって動機づけられる神の怒り、つまり苦痛を記述している。子供たちのために最善を尽くそうとする父親の苦悩にもかかわらず、子供たちは自分たちの思いの道を行くものである(旧約聖書の歴史、568頁)。

「Wrath」とは、深く激しい怒りと憤りとして定義されている古い英語である。「Anger」とは、怒りや侮辱の感情によって、憤慨した不快感や強い敵意を煽るものと定義されている。不正と誠実さによって引き起こされた正義の怒りとしての憤慨である。それが「Wrath」であり、聖書はまた、「Wrath」は神の属性であると教えている (J.I. Packer)。

B. 周辺諸国に関する預言 (13 - 23章)。

ここで神はイスラエルとユダを取り巻く国々の全 11 カ国に対して裁きを下される。周辺国とは、バビロン、アッシリア、ペリシテ、モアブ、シリアのダマスカス、イスラエル、エチオピア、エジプト、エドム、アラビア、フェニシアである。

彼らはモーセの律法を持たず、主との特別な契約関係にもななかったが、仲間の人間をどの様に扱ったかについて、依然として神に対して責任があった。このセクションでは、いくつかの幅広いテーマを参照している。*

ー世界の国々は神の支配下にあり、神が共に働いてくださり御心を叶えることが可能である。

ー神は特に誇りの罪を嫌われる (13 : 11 ; 16 : 6 ; 23 : 9)。国家が生きた神から離れ、富と武器を信じる様になるとき、神こそが唯一確かな避難所であることを示す必要がある。

ー神は、お互いをどのように扱い合っているかにおいて国を裁かれる。ユダは、神の律法を持つ、言及されている唯一の国である。それでも神は、他の異邦人の国々に、行いに対する責任を負わせられた。神は常にご自分の民に約束と希望のみことばをお与えになる。バビロンは滅びるが、神はユダを心配される (14 : 1-3, 32)。モアブはエルサレムから聖域を受け入れないが、神はいつかモアブを支配する救済の法則を確立される (19 : 23-25)。

ーしたがって、例え国家や国際的な状況を恐れているが、神の子供たちは、全能の神が王位にあることを知っているので、平安を持つことが出来る (詩篇 2 : 4)。

*ワレン・ウィエルスビー著、聖書展覧会の解説、預言者ーイザヤ、29頁。

C. 地球全体とその住民の裁きに関する預言と救世主王国の到来 (24 - 35章)。

イザヤは、神に与えられた預言を全世界に向けた。預言者たちは、この期間を「主の日」と呼んでいる。新約聖書のマタイの福音書 24章、マルコの福音書 13章、ヨハネの黙示

録6-19章がこの時期に匹敵する。抑圧された人々のために正義が存在するでしょうか？迫害された人々に正義が、また誇り高く反抗的な人々に裁きが訪れるのでしょうか？最終的にあると断言している。イザヤ書24-27章において、神の敵の破壊とその国の神の民イスラエルの修復で終わる世界的な裁きについて記述している（ウィエルズビー、旧約預言者、30頁）。この後（28-31章）、焦点を神の民に戻し、神の裁きを経験することになる。28-31章は、主にエルサレムに焦点を当てた5つの一連の「苦境」（28:1; 29:1, 15; 30:1; 31:1）が記録されている。これらの裁きと悲しみの中、散在したのは、修復と栄光の約束であった。イザヤはユダの支配者たちに「権力政治」と国際条約に頼ることを止めさせ、主に信頼を置くよう働きかけた（ウィエルズビー、34頁）。最後に（32-35章）、復元されたシオン（イスラエル）の真ただ中にある正しい王の統治に焦点を当てている。次のように始まり：見よ、ひとりの王が正義をもって統べ治め、君たちは公平をもってつかさどり（32:1）・・・次のように終わる：主にあがなわれた者は帰ってきて、その頭に、とこしえの喜びをいただき、歌うたいつつ、シオンに来る。彼らは楽しみと喜びとを得、悲しみと嘆きとは逃げ去る（35:10）。

D. 歴史的間奏：ヒゼキヤとアッシリアの脅威、とヒゼキヤの致命的な病のための祈り（36-39章）。

この箇所は、列王記第二18-20章と歴代誌第二29-32章と同じ歴史的な事件を扱っている。一つ重大な追加事項がある。それは、ヒゼキヤ自身の病のための癒しの祈りの記述の完全版である（イザヤ書38:9-20）。

次の言葉はユダの王ヒゼキヤが病気になって、その病気が直った後、書きしるしたものである。わたしは言った、わたしはわが一生のまっ盛りに、去らなければならない。わたし

は陰府の門に閉ざされて、わが残りの年を失わなければならない。わたしは言った、わたしは生ける者の地で、主を見ることなく、世における人々のうちに、再び人を見ることがない。わがすまいは抜き去られて羊飼の天幕のようにわたしを離れる。わたしは、わが命を機織りのように巻いた。彼はわたしを機から切り離す。あなたは朝から夕までの間に、わたしを滅ぼされる。わたしは朝まで叫んだ。主はししのようにわが骨をことごとく砕かれる。あなたは朝から夕までの間に、わたしを滅ぼされる。わたしは、つばめのように、つるのように鳴き、はどのようにうめき、わが目は上を見て衰える。主よ、わたしは、しえたげられています。どうか、わたしの保証人となってください。しかし、わたしは何を言うことができましょう。主はわたしに言われ、かつ、自らそれをなされたからである。わが魂の苦しみによって、わが眠りはことごとく逃げ去った。主よ、これらの事によって人は生きる。わが霊の命もすべてこれらの事による。どうか、わたしをいやし、わたしを生かしてください。見よ、わたしが大いなる苦しみにあったのは、わが幸福のためであった。あなたはわが命を引きとめて、滅びの穴をまぬかれさせられた。これは、あなたがわが罪をことごとく、あなたの後に捨てられたからである。陰府は、あなたに感謝することはできない。死はあなたをさんびすることはできない。墓にくだる者は、あなたのまことを望むことはできない。ただ生ける者、生ける者のみ、きょう、わたしがするように、あなたに感謝する。父はあなたのまことを、その子らに知らせる。主はわたしを救われる。われわれは世にあるかぎり、主の家で琴にあわせて、歌をうたおう。（イザヤ書38:9-20）

表示されている神：神の関係への情熱は、神に似せて造られた人々と共にある。それはユダヤ人に向けられたものであるが、新約聖書は全ての人類が神を知り、神の慈悲と救いの下

に連れて来られるという神の心を増幅させている。彼の聖さは、神の神性の不変の属性である。それを変えることはできないが、神は神聖な御子を通して、すべての人間に対して勃発する神の聖なる怒りから私たちを贖う道を備えてくださった。キリストは私たちの罪のために父の怒りを負ってくださった。キリストは愛であり、また、裁かれる神である。したがって、信じられない程の慈悲と忍耐によって、非常に長く苦しんでおられる。だからこそ、たくさんの警告があり、悔い改めの機会が与えられて来たのです。言い尽くすことの出来ないキリストの愛を知り、私たちのために命を捧げてくださったと信じる選択が出来ますように。

討論のための質問：

1. イザヤの神の神聖なビジョンと神に対する応答によってどのような影響をうけましたか (イザヤ書6章)？
2. イザヤが清められ、赦されたのは、神の憐みによるものである。憐み深い神様はあなたの生活にどのような影響をもたらせましたか？
3. 神は忠実さに導かれ、イザヤに多くの幻と赦しをお与えになった。数々の将来の予兆の中で一番印象的であったのはどれですか？神の忠実さは魂にどのように触れましたか？

説教の概要：

イザヤが見た神の幻

イザヤは神の神聖のビジョンに直面した：

ウジヤ王の死んだ年、わたしは主が高くあげられたみくらに座し、その衣のすそが神殿に満ちているのを見た。その上にセラピムが立ち、おのおの六つの翼をもっていた。その二

つをもって顔をおおい、二つをもって足をおおい、二つをもって飛びかけり、互に呼びかわして言った。「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主、その栄光は全地に満ち」。その呼ばわっている者の声によって敷居の基が震い動き、神殿の中に煙が満ちた。その時わたしは言った、「わざわざいなるかな、わたしは滅びるばかりだ。わたしは汚れたくちびるの者で、汚れたくちびるの民の中に住む者であるのに、わたしの目が万軍の主なる王を見たのだから」。

(イザヤ書6：1-4)

その時イザヤは自分(と国家の)不浄を知った：

その時わたしは言った、「わざわざいなるかな、わたしは滅びるばかりだ。わたしは汚れたくちびるの者で、汚れたくちびるの民の中に住む者であるのに、わたしの目が万軍の主なる王を見たのだから」。(イザヤ書6：5)

全国家の罪の重さを知った：

ああ、罪深い国びと、不義を負う民、悪をなす者のすえ、墮落せる子らよ。彼らは主を捨て、イスラエルの聖者をあなたどり、これをうとんじ遠ざかった。(イザヤ書1：4)

神の聖さと私たちの罪が共存することは不可能である。神からの分離が起こる：

見よ、主の手が短くて、救い得ないのではない。その耳が鈍くて聞き得ないのでもない。ただ、あなたがたの不義があなたがたと、あなたがたの神との間を隔てたのだ。またあなたがたの罪が主の顔をおおったために、お聞きにならないのだ。(イザヤ書59：1, 2)

それでも聖なるお方は、救いのお方となられることを望まれる：

わたしはわが受膏者クロスの右の手をとって、もろもろの国をその前に従わせ、もろもろの王の腰を解き、とびらをその前に開かせて、門を閉じさせない、と言われる主はその受膏者クロスにこう言われる、「わたしはあなたの前に行つて、もろもろの山を平らにし、青銅のとびらをこわし、鉄の貫の木を断ち切り、（イザヤ書45：1，2）

それゆえ、主は待っていて、あなたがたに恵を施される。それゆえ、主は立ちあがって、あなたがたをあわれまれる。主は公平の神でいらせられる。すべて主を待ち望む者はさいわいである。（イザヤ書30：18）

私たちには、神様の慈悲に応えるか、または拒絶するか選択肢が与えられている：

主は言われる、さあ、われわれは互に論じよう。たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。もし、あなたがたが快く従うなら、地の良き物を食べることができる。（イザヤ書1：18-19）

主なる神、イスラエルの聖者はこう言われた、「あなたは立ち返って、落ち着いているならば救われ、穏やかにして信頼しているならば力を得る」。しかし、あなたがたはこの事を好まなかった。（イザヤ書30：15）

イザヤは悔い改める選択をした：

この時セラピムのひとりが火ばしをもって、祭壇の上から取った燃えている炭を手に携え、わたしのところに飛んできて、わたしの口に触れて言った、「見よ、これがあなたのく

ちびるに触れたので、あなたの悪は除かれ、あなたの罪はゆるさされた」。（イザヤ書6：6，7）

イザヤは、清められ、赦され、神はイザヤを目的のためにお用いになられた：

わたしはまた主の言われる声を聞いた、「わたしはだれをつかわそうか。だれがわれわれのために行くだろうか」。その時わたしは言った、「ここにわたしがおります。わたしをおつかわしてください」。（イザヤ書6：8）

イスラエルは悔い改め清められることを拒絶した。そして裁きを受ける：

主はエフライムがユダから分れた時からこのかた、臨んだことのないような日をあなたと、あなたの民と、あなたの父の家とに臨ませられる。それはアッスリヤの王である」。（イザヤ書7：17）

それでも神は忠実であられるので、イスラエルの民にも更に望みを残された：

1. 残れるものが保存された。

その日、主は再び手を伸べて、その民の残れる者をアッスリヤ、エジプト、パテロス、エチオピヤ、エラム、シナル、ハマテおよび海沿いの国々からあがなわれる。主は国々のために旗をあげて、イスラエルの追いやられた者を集め、ユダの散らされた者を地の四方から集められる。その民の残れる者のためにアッスリヤからの大路があり、昔イスラエルがエジプトの国から上ってきた時にあったようになる。

（イザヤ書11：11，12，16）

2. 救い主が備えられる。

エッセイの株から一つの芽が出、その根から一つの若枝が生えて実を結び、その上に主の霊がとどまる。これは知恵と悟りの霊、深慮と才能の霊、主を知る知識と主を恐れる霊である。彼は主を恐れることを楽しみとし、その目の見るところによって、さばきをなさず、その耳の聞くところによって、定めをなさず、正義をもって貧しい者をさばき、公平をもって国のうちの柔和な者のために定めをなし、その口のむちをもって国を撃ち、そのくちびるの息をもって悪しき者を殺す。正義はその腰の帯となり、忠信はその身の帯となる。(イザヤ書11:1-5)

ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、「霊妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君」ととなえられる。そのまつりごとと平和とは、増し加わって限りなく、ダビデの位に座して、その国を治め、今より後、とこしえに公平と正義とをもってこれを立て、これを保たれる。万軍の主の熱心がこれをなされるのである。

(イザヤ書9:6, 7)

3. 王国が準備される

その日、エジプトからアッスリヤに通う大路があつて、アッスリヤびとはエジプトに、エジプトびとはアッスリヤに行き、エジプトびとはアッスリヤびとと共に主に仕える。その日、イスラエルはエジプトとアッスリヤと共に三つ相並び、全地のうちで祝福をうけるものとなる。

(イザヤ書19:23, 24)

おおかみは小羊と共にやどり、子牛、若じし、肥えたる家畜は共にいて、小さいわらべに導かれ、雌牛と熊とは食い物を共にし、牛の子と熊の子と共に伏し、ししは牛のようにわらを食い、乳のみ子は毒蛇のほらに戯れ、乳離れの子は手をまむしの穴に入

れる。彼らはわが聖なる山のどこにおいても、そこなうことなく、やぶることがない。水が海をおおっているように、主を知る知識が地に満ちるからである。

(イザヤ書11:6-9)



*上の図の画像の一部を聖書プロジェクトに寄付します。